

21世紀の国際交流へ向けて

日韓交流シンポジウムIN対馬



パネルディスカッションの様子

12月9日、対馬市交流センターイベントホールで、『日韓交流シンポジウムIN対馬』が開催されました。  
このシンポジウムは、対馬市と韓国との国際交流の現状を見つめ、専門家の意見を聞き、今後の交流へ向けた指針を探ろうと開催されたものです。

シンポジウムでは、産経新聞の黒田勝弘ソウル支局長による「これからの日韓交流のあり方」と題した基調講演に続き、「対馬の振興と国際交流」をテーマに有識者によるパネルディスカッションが行われました。



基調講演を行った黒田勝弘さん

われきました。

黒田さんは、現在韓国では竹島を巡る領有権問題などもあり民族主義の高まりからちよつとした対馬ブームが起きている。政治や外交、メディアは強い反日だが、一般人の対日感情は緩和している

ので、民間や自治体のレベルでの交流を進めていったほうがよい。また、韓国は急速に高齢化しており、行政、産業、医療などあらゆる分野で日本がよい手本となることのできる。そこで、年輩の方にも民間交流（シルバー交流）をもっとやってほしいと話していました。

対馬の魅力を生かして地域振興を  
その後、講演を行った黒田勝弘さんを司会者に、対馬市



竹内行夫さん  
元外務省事務次官。現在、外務省顧問、経団連特別顧問、対馬市特別顧問。

特別顧問の竹内行夫さん、NHK国際放送局チーフディレクターの藤本敏和さん、ジャーナリストで日韓交流事業を行っているユ・ファジュンさん、女優の黒田福美さんの4名により、パネルディスカッションが行われました。

この中で、竹内行夫さんは、今後30年を考えると朝鮮半島は統一され、人口7,000万人という大国ができる。そのような将来の状況を今のうちから思い描いておく必要がある。若し人の交流が今後重要。また、対馬には知的好奇心をかき立てる歴史的資源が十分あるので、それを活かして韓国だけでなく日本人の関心をもっと引きつける必要がある。そのためには宿泊施設の整備も必要だが、いい観光ガイドを養成することが重要だと話していました。

「現代の名工」に選出  
若田硯職人 廣田幸雄さん(82歳)



お客さんに喜んでもらえるのが硯づくりの一番の魅力だそうです。



廣田さんが製作した硯の数々

卓越した技能を持ち、その道で第一人者の技能者に対し、厚生労働大臣が表彰する「現代の名工(卓越した技能者)」に、厳原町下原で若田硯を製作している廣田幸雄さんが選ばれました。

若田硯は、厳原町小茂田の若田川で採取される若田石の模様をそのまま活かして造られる対馬の代表的な伝統工芸品です。

廣田さんは、祖父や近所の親戚が若田硯職人であったことや、若田石が採れる山の近くに住んでいたことで、子どもの頃から硯を作って遊んでいたそうです。学校卒業後は地元会社に勤務し、硯製作は定年後に...と考えていたところ、「後継者不足で若田硯

が途絶えそうだ」との新聞記事を目にしたことがきっかけで早期退職を決意し、昭和47年10月に「寿峰工房」を開いて本格的に製作を始めました。現在は受注生産を行っており、書道家を中心に全国から注文が来ているそうです。また、後継者育成と地域振興のため、各町の公民館講座で講師を務め、伝統の普及にも力を入れています。

現代の名工に選出されたことに、「夢にも思わなかった」と、とても驚いた様子でした。また今後については、「伝統のある若田硯をいつまでも守ってほしい」と後継者に期待を寄せていました。

『提言書』を市長へ提出  
対馬市政策推進懇話会



提言書を市長へ提出する委員の皆さん  
左から村井満良・扇武二・三原叶也部会長、  
平間雅哲懇話会会長

対馬の振興について対馬市政策推進懇話会がまとめた提言書が12月13日、松村市長へ提出されました。

同懇話会は、市長の委嘱を受けた73名の委員が、2年間にわたり対馬の現状と問題点について話し合い、今後の対馬市の活性化策について協議を行ってきました。

提言書には、3部会（しまの活性化推進部会、豊かな島づくり部会、スポーツ・文化振興部会）ごとに具体的な活性化策が謳われています。

市では今後、この提言書をもとに、島の活性化を目指して取り組んでいきます。

対馬市民球団  
課外授業

上県町の子どもたちへ講演・野球教室



村田兆治監督と三槻圭祐くん



ゴロの捕り方を教わる子どもたち

11月30日、上県町の仁田小学校体育館で対馬市民球団「対馬まさかりドリームス」

の課外授業が実施され、村田兆治監督が講演と実技指導を行いました。

午後2時からの講演会には、同小学校の全児童99名が参加。講演の中で村田監督は、小学校の頃、プロ野球選手になりたいと決意して以来、たくさん研究や努力を重ね夢を達成した体験を話し、子どもたちに「目標や夢を持って頑張ってください。努力は必ず味方します」と語りかけました。講演後、児童を代表して6

国の名勝指定を前に説明会  
史跡 金石城跡心字池



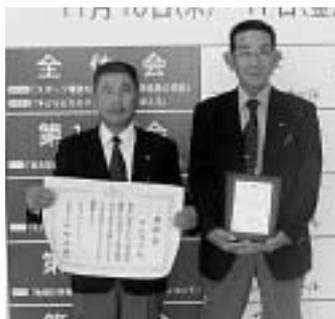
名勝に指定される予定の心字池。  
奥には万松院が見えます。

県内では3カ所目となる国の名勝「旧金石城庭園」として、今年度中にも指定される予定となった史跡「金石城跡心字池」で11月26日、市教育委員会文化財課による説明会が厳原町今屋敷の現地で行われました。

小雨の降る中で行われた説明会には市民約30名が参加。担当職員から名勝指定の理由や、心字池の文化的・歴史的価値、整備の経緯などについて詳しく説明があり、参加者は感心した様子で聞き入っていました。

「心字池」は、元禄3（1696）年（1690）～1693年）の間に、中庭茂三によって造

られたと推定されています。平成9年度から池及び周辺の発掘調査が行われ、14年から続けられている保存整備事業を来年度まで行った後、20年度から公開される予定です。体育指導委員として



平山清治さん(左)と井鷹志会長

11月16、17日に大分県別府市で開かれた第47回全国体育指導委員研究協議会で、厳原町西里在住の平山清治さん（64歳）が全国表彰を受けました。

平山さんは、体育指導委員として35年間活躍されており、その間グランドゴルフなどの軽スポーツの普及に努められました。栄えある受賞おめでとうございます。

また、同大会で対馬市体育指導委員協議会井鷹志会長も全国表彰を受賞しました。

「命の大切さを気付かせて」  
人権を考える対馬マンス講演会



一人芝居を行う福永宅司さん

身近な差別や偏見について考える場を提供し人権意識を高めようと、県・市・市教育委員会の主催による人権を考える対馬マンス講演会が、12月3日、対馬市交流センターで開かれ、福永宅司さんによる一人芝居「もも子」が上演されました。

福永さんは福岡市在住の元小学校教諭で、一人芝居による人権啓発活動を全国で毎年200回以上行っています。「もも子」は、5歳で筋肉が固まってゆく難病を発病した少女が希望を持ち明るく生きてゆくことで、家族や学校の友達に人権意識を芽生えさせるという内容。福永さんの迫

真の演技で、懸命に生きる小学3年生のもも子が演じられ、社会に根強く残る差別の現状が生々しく再現されました。劇中で、もも子が幼い命を亡くした時には、会場からすずり泣く声が聞こえてきました。講演の最後に福永さんは、

「いじめや子どもが亡くなる事件が多すぎて講演が追いつかない状態です。今、大人が本気になって子どもに命の大切さを気付かせてあげる時。いじめられている子どもだけでなく、いじめている子どもたちにも命の大切さを気付かせてあげて」と呼び掛けました。

### 年末恒例の物産市

上対馬町比田勝



12月10日、上対馬町比田勝港埋立地で、第15回対馬物産



抽選会の様子

市（対馬観光物産協会主催）が開かれました。

毎年恒例の物産市は、対馬島内の方々に「海の幸」「山の幸」などの地元特産品を広く紹介・販売し、商業の活性化を図ろうと実施されているもので、地方発送も行なうため、遠方にお歳暮を贈るお客さんも数多く訪れます。

当日は、厳原町からのバスツアーも運行され、会場は多くの来場者で賑わいました。また、特産品の販売の他にも子どもたちによるパトントワラー行進や、地元の太鼓会による太鼓演奏、豪華賞品が準備されたお楽しみ抽選会も行われ、大いに盛り上がっていました。

掘り出し物がいっぱい  
フリーマーケットIN上対馬

12月10日、上対馬町比田勝仲通り商店街では、第6回フリーマーケットIN上対馬（商会上対馬支部主催）が開催されました。

会場では家庭で使われなくなった物や衣類などが数多く出品され、訪れた買い物客は掘り出し物を探そうと目を光らせていました。

また、ぜんざいが無料でふるまわれ、フォークライブや大道芸パフォーマンスに、買い物客は楽しいひとときを過ごしていました。



賑わうフリーマーケット

白寿のお祝い  
（99歳おめでとうございます）



陶山ツネさん  
（厳原町久根浜）

明治40年12月10日生まれ。

長男の与吉さんによると、食べ物をゆっくり噛んで食べることと好きな歌を歌うことが長生きの秘訣とのこと。若い頃は「安来節」を、現在は「いわいめでた」などの民謡を元気に歌ってらっしゃるそうです。平成14年6月から峰町の養護老人ホーム丸山を利用されています。

写真：長男夫婦と市長にかこまれ、笑顔のツネさん

辛坊次郎文化講演会  
「今、地方に  
大きなチャンスが…」



テレビ番組の司会者として  
もお馴染みの辛坊次郎読売テ  
レビ解説委員による文化講演  
会「テレビ報道の裏おもて」  
が12月3日、厳原町で開かれ  
ました。

社団法人対馬法人会が主催  
し、税を考える週間行事の一  
環として行われたものです。

辛坊さんは講演に先立ち  
「せっかく対馬にくるのだか  
ら」と前日に対馬入りし、空  
いた時間にレンタカーで一入  
島北部の韓国が見える展望台  
まで訪問したことを話し、  
「対馬はいいところ。老後は  
ここに住もうかな」と語り観  
衆から盛大な拍手を受けてい  
ました。

講演では、テレビ番組の舞  
台裏での楽しい出来事や、日

本の経済状況について話され、  
「関東で定年退職を迎える団  
塊の世代約700万世帯が今  
老後をどこで過ごそうかと探  
しており、来日以降日本で民  
族大移動が起こる。この人達  
を呼び込む発想が出来た会社  
個人、自治体などが今後発展  
していく。今対馬にも大きな  
チャンスが待っていますので  
皆さんがんばって下さい」と  
集まった約160人の聴衆を  
激励し、講演を締めくくりま  
した。

上対馬で消防訓練



油火災の消火訓練を行う参加者

12月19日、対馬市上対馬支  
所・上対馬総合センター合同  
の消防訓練が同センター駐車  
場で行われました。

当日は市消防署員を講師に  
避難通路の誘導確認や、家庭

における初期消火の対応、消  
火器の使用方法など実演を交え  
ての講習が行われました。  
参加者の一人は「天ぷら油  
の消火は濡らした布を被せる  
ことが有効で、水での消火は  
危険なことがよく分かった」  
と話していました。

夜間パトロールで  
安全・安心な地域づくり  
水崎地区防犯連絡協議会



夜間パトロールの様子

11月28日、豊玉町内6地区  
の防犯連絡所長・区長及び南  
警察署駐在員等でつくる豊玉  
町水崎地区防犯連絡協議会が  
夜警活動を行いました。

当日メンバーは、午後7時  
から地域の安全対策について  
熱心な意見交換を行った後、  
地域住民の車のロックの確認  
や啓発チラシを配布し、防犯  
意識の向上を呼びかけました。

とよたま物産店 新装オープン  
12月1日、とよたま物産店が新装オープンしました。  
対馬の四季おりおりの新鮮な海産物、農産物を用意して  
ますので、ご来店をお待ちしています。



「ふるさと市(仮称)の出店者を募集  
問い合わせ先  
豊玉町振興公社直売店(とよたま物産店)  
対馬市豊玉町仁位988番地3  
092(0)58-8030  
事務所・加工場  
092(0)59-0339



年末の交通安全県民運動

12月12日から31日までの20日間実施された  
年末の交通安全県民運動に合わせ、12月15日、  
上対馬町比田勝の交番前で交通安全キャンペーンが実施されました。

キャンペーンにはツシマヤマネコの着ぐるみ  
も参加。最近多発しているツシマヤマネコの交  
通事故防止も併せて啓発しました。